

教校部「真宗教学史」平田厚志

大乘仏教における「真俗二諦」の道理と近代真宗教学史における「真俗二諦」論の決定的変質

前期 大乘仏教における「真俗二諦」の道理

龍樹『中論』に説く「二諦」論の意義

曇鸞『浄土論註』に説く「二諦」の道理

親鸞における大乘菩薩道

親鸞思想における世俗の法との向き合い方

真宗思想史における『末法灯明記』の受容

蓮如における「仏法」と「王法」

戦国末期顕如教団における「仏法」と「王法」の相克

近世真宗教学における「真俗二諦」思想の形成

幕末における「真俗二諦」論の教学的導入

後期 近代真宗教学史における「真俗二諦」論の決定的変質

島地黙雷・赤松蓮城の「真俗二諦」論

前田慧雲の「真俗二諦」論

「真俗二諦」論をめぐる清沢満之の見解

梅原真隆の「真俗二諦」論

戦時教学と「真俗二諦」論

「真俗二諦」論をめぐる三木清の見解

戦後教学史における「真俗二諦」論の克服の試み